



食料生命環境学科
水士環境科学コース

教授 藤井 秀人

2014年4月より、山形
大学農学部食料生命環境学
科水士環境科学コースで水利

環境学分野を担当させていた
だくことになりました。これま
では、つくばにある農林水産省
所管の研究機関である農村工
学研究所(旧農業工学研究
所)と国際農林水産業研究セ
ンター(旧熱帯農業研究セン
ター)で27年間、国内および海
外のフィールドを対象に農業
水利に関する研究を進めて参
りました。

私の出身地である兵庫県は
日本でも最も溜池が多い県で、
学位論文は兵庫県南部の溜池
地帯を対象に溜池掛かり水田
の節水管理の実態を分析し
「溜池地域の農業水利の現状
に関するシステム論的研究」と

してとりまとめました。

農業工学研究所では、主に
河口・沿岸域の水環境保全に
関する研究を行ってきました。
例えば、諫早湾干拓堤防締め
切り工事期間中の環境への影
響を少なくするための許容潮
流速について、水理模型実験や
DGPSを搭載した漂流式ブ
イによる流況観測、また都市
化による農林地の減少と洪水
特性の変化について利根川流
域印旛沼支流域を対象に農
林地の有する洪水緩和機能の
研究などを行ってきました。

国際農林水産業研究セン
ター、旧熱帯農業研究セン
ターでは、開発途上地域における
農業水利の改善や農地の持つ
多面的機能の評価に関する研
究を行ってきました。海外に滞
在して行った研究期間は10年
近くになります。マレーシアで
は低平地の大区画圃場である
ムダ地区の灌漑水田約10万ha
を対象に、三次水路整備によ
る圃場用水量の節減効果、稲
の移植栽培から直播栽培への
変化に伴う灌漑用水量の変
化、直播栽培で問題となる苗
立不良を改善するために圃場
排水や田面均平の改良に関す
る実証的な研究を行いました。
カンボジアではメコン河委

員会に派遣され、東南アジア
最大の国際河川であるメコン
河を対象にトンレサップ湖を
含むカンボジアメコンの氾濫域
が有する洪水緩和機能の評価
を行いました。また西アフリカ
のガーナでは、内陸小低地(日
本の谷地に相当する)におけ
る小規模天水低地稲作の可能
性に着目し、リモートセンシ
ング/GIS技術を活用して立
地条件(自然的要因・経済的
要因・社会的要因・環境的要
因)によるアジア型水田稲作適
地の評価と適地選定手法に関
する研究を行いました。

21世紀に入り、地球温暖化
による気候変動が原因と思わ
れる異常気象や極端現象が世
界各地で頻発しており、70億
人を突破した世界人口の急増
に対応した食料の確保に大き
な不安材料を投げかけていま
す。アフリカから帰国後は、農
業水利分野の研究者として、
気候変動が農業水利や農地の
生産環境に与える影響を軽減
し適応するための研究の必要
性を痛感し、開発途上地域の
気候変動に関する研究を進め
てきました。山形大学に着任
後も科研費「メコンデルタ高洪
水稲作地域における気候変動
に向けたダイクシステムの再構

社会への貢献が私たちのテーマです。

株式会社理研分析センターは、
「環境は次の世代からの預かりものである。」との観点に立ち、
「分析技術をととして社会に貢献する。」ことをテーマとして
積極的に活動します。



理研分析センター



特定計量証明(ダイオキシン類 極微量分析)

飲料水・作業環境・放射性物質検査(ISO17025)

環境計量証明(大気・水質・土壌対策・臭気・食品・廃棄物)

代表取締役社長 菅原 幸司(昭和49年農芸化学科卒)

HP:<http://riken-ac.com>

お問い合わせ ☎ 0235-24-4427

✉ info@riken-ac.com

築」の課題を継続し、気候変動により洪水リスクが高まりつつあるベトナムメコンデルタの洪水常襲地域の稲作農地を対象に洪水と共存可能な農業インフラの構築に向けた研究を継続して行っていくつもりです。

最後に、山形大学農学部のある庄内平野南部には、赤川農業水利事業などで水利インフラが整備された1万ha余りの優良な水田農業地帯があり、農業水利分野の研究をするのに非常に適した場所です。本地域を対象に、顕在化している気候変動に適応できる水利インフラの整備技術、環境系と共存できる持続可能な水利環境の整備技術に関する研究を行い、温暖化を軽減し生態系と共存できる農村社会の構築に貢献したいと考えていますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



食料生命環境学科
安全農産物生産学コース

准教授 **山 裕城**

(平成10年生物生産学専攻
平成12年農学研究科修了)

平成26年4月より、安全農産物生産学コース畜産学分野の准教授として着任しました。松山裕城と申します。この場をお借りしてご挨拶申し上げます。

平成6年に山形大学農学部に入學し、平成15年に岩手大学大学院連合農学研究科を修了するまで山形の地で学びました。畜産学を専攻し、高橋敏能先生、萱場猛夫先生および堀口健一先生にご指導いただきました。在学中は、山形県の特産である肥育牛を対象に、反芻胃内で発生する温室効果ガスのメタンを抑制する技術開発を行いました。

博士号を取得した後、農業・食品産業技術総合研究機構の畜産草地研究所に勤務し、幸



いにも大学で学んだ、反芻動物の栄養生理」に係わる研究に従事することが出来ました。在職中は乳用牛を対象とした研究を行い、特にイネの飼料化（イネホルクroppサイレージ、飼料用米）に関する研究に力を注ぎました。現在、米の消費量の減少や飼料自給率の向上を背景に、転作田や耕作放棄田で飼料用イネの生産とそらの利用が国の施策として進められており、この山形県も作付面積を拡げております。飼料用イネと一口に言っても品種、栽培方法および収穫機械等の違いによって、栄養素の含有量やその消化特性が異なります。実際に様々な来歴をもつイネを意図的に生産、乳用牛に給与して、その代謝様相や乳生産に及ぼす影響を精査しました。そこで得られた成果は、飼料用イネの最適な利用技術の体系化に貢献を果たしました。飼料用イネの研究では異なる研究分野や全国の研究機関、行政機関および生産現場の方々と連携しましたが、その重要性を肌身に感じるものが出来た経験は大きな財産になったと考えております。現在も研究は継続しており、飼料用イネの更なる利用促進を図るため、イネに含まれる機能性成分を利用した動物の健康増進や畜産物の付加価値化に

繋がる飼養技術の開発を目指しております。

これから教員としては、専門的な知識を授けるだけに留まらず、日本の農業や食料生産の置かれている現状を理解し、将来について考えを持ち、行動できる人を育てていきたいと考えております。研究者としては、様々な機会を通じて山形の農業振興や山形からの情報発信に努めていきたいと思っております。今後とも、ご指導、ご鞭撻およびご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。



だだちゃまめの九郎右衛門 特栽米の九郎右衛門

昭和63年卒、木村充です。卒業以来だだちゃ豆づくりに携わり、少しは地元貢献できたかな、と思っています。

鶴岡市矢馳甲17 Tel.Fax 0235-22-4824
E-mail kurouemon@snow.plala.or.jp
HP yamagatada.com/2/

仙台コカ・コーラプロダクツ株式会社

私たちは、宮城県の蔵王町でコカ・コーラやアクエリアス、ジョージア、綾鷹等の清涼飲料水をお客様にいつまでも安心して飲んで頂ける様、日々厳しい品質管理のもと製造しています。

※既卒者・2016年卒についても採用を予定しております。

住所:宮城県刈田郡蔵王町宮宇南川添1-1

電話:0224-32-3500

代表取締役社長 佐藤 義博(昭和50年農芸化学科卒)



平成26年度山形大学農学部学生研究支援事業について

鶴窓会 副会長 齋藤 博行
(昭和45年農学科卒)

母校の発展に寄与すべく発足した本事業は平成21年から開始し、本年は6年目になります。当初計画では20課題の採択でしたが、会員からの会費納入額が大幅に減少したこと

から採択件数の見直しが必要になってしまい、わずか4課題になってしまいました。最近では、農学部学生指導教員に本事業が理解されてきただけに残念であり、断腸の思いです。

研究支援事業の環として本年3月の卒業式・学位記授与式では、鶴窓会会長から成績優秀者に表彰状の贈呈を行い、参加者に母校への支援事業として紹介することができました。

本事業の趣旨は、現場からの研究ニーズが特に重要ですので、勤務先や現場で話題になったことや農作業中に思いついた研究要望を申請して下さいさるようお願いいたします。

鶴窓会ホームページに研究支援事業申請書様式がありますので、事務局にメール、ファックス、郵送等で送付して下さい。いつでも受付していただきますが、来年度の学生卒論課題のこともあり、早め提出して頂ければ幸いです。

なお、会費納入者が少ないと本事業の予算確保ができない状況になりますので、母校の後輩への支援事業にご理解とご協力をよろしくお願いします。

平成26年度山形大学農学部学生研究支援事業採択課題

(実施学生、研究課題名)

1. 大学院農学研究科 渡辺 連

◎研究課題

マウスの卵巣機能と卵母細胞に及ぼすシスチングルタミン酸トランスポーター遺伝子欠損の影響

2. 大学院農学研究科 鈴木 理

◎研究課題

圃場周囲の景観が環境保全型水稻栽培における節足動物群集と雑草群落に及ぼす影響

3. 食料生命環境学科 神長 駿佑

◎研究課題

エダマメ調整作業の効率化に関する研究

4. 食料生命環境学科 横山 誉志幸

◎研究課題

赤川水系を対象としたサクラマス親魚の河川利用について

平成26年度鶴窓会会長表彰者

| | |
|---|-------------------------------------|
| 1 | 大学院農学研究科 生物生産学専攻 村松 亜由美 |
| 2 | 大学院農学研究科 生物資源学専攻 工藤 瑛司 |
| 3 | 大学院農学研究科 生物環境学専攻 沼澤 篤 |
| 4 | 食料生命環境学科 安全農産物生産学コース 佐々木 雅史 |
| 5 | 食料生命環境学科 食環境マネジメント学コース 中村 みず季 |
| 6 | 食料生命環境学科 食品応用生命科学コース 小島 直人 |
| 7 | 食料生命環境学科 植物機能開発学コース 伊藤 友貴 |
| 8 | 食料生命環境学科 森林科学コース 山下 吉國 |
| 9 | 食料生命環境学科 水士環境科学コース 新野 薫 |

「第3回山形大学ビーチサッカー大会」の開催

校友会理事 鶴窓会 副会長
齋藤 博行
(昭和45年農学科卒)

今年の開催は11チーム130人の参加を得て9月13日に開催しました。今回初めて農学部に来た選手も多くいたようで、各キャンパス間での学生交流事業としての役割を果たしています。

農学部の選手と職員は前日から鶴岡市由良温泉に宿泊して会場の準備にあたりましたが、当日は朝から風雨が強く、由良海岸に張ったテントも飛ばされそうになり、急ぎ農学部体育館での開催になりました。昨年は好天に恵まれて由良海岸でビーチサッカーの試合を開催できただけに残念でした。



開会式では、西澤隆農学部長の挨拶、大沼一男校友会事務局長による校友会事業の紹介があり、閉会式では、表彰と佐藤辰二鶴窓会会長の試合講評がありました。体育館でミニサッカーの試合は、砂浜での試合と異なり、スピード感にあふれた試合展開で、テクニカルな足技で一瞬にゴールが決まるので目が離せません。

昼食は体育館前で、大変おいしい焼肉とおにぎりを腹一杯食べたようで、午後からの試合では選手の動きがやや鈍るような気配でした。熱戦の結果、小白川キャンパスの「フットサルクラブ」の「大富豪」チームが優勝しました。来年は、好天に恵まれて、砂浜での開催となることを祈ります。



会員の声



傘寿の壁

鶴岡市在住 山濱 敏一
(昭和29年農学科卒)

山大農学部(農産製造学専攻)を卒業して、大病を患う事もなく今年(平成26年)で60年の歳月が経った。平成29年には創立70周年を迎えると言う。現在の農学部キャンパスは施設・設備が充実しており、孫世代、ひ孫世代の賑わいで隔世の感がある。平成27年は昭和90年で昭和・桁世代には傘寿から卒寿の年代となるが、新聞記事の「お悔やみ」欄がしきりと気にかかる。

傘寿を越えると自分の来し方がよく見える。満州事変(1931)、支那事変(1937)、大東亜戦争(1941)の中で小学生は軍国少年・少女として教育され、中学(旧制)の低学

年は農家へ勤労奉仕、高学年は軍需工場へ学徒動員に明け暮れ、昭和20年(1945)広島、長崎に投下されたビカドン爆弾(当時は新型爆弾と言った)によって終戦。当時の広島、長崎は70年位は人が住めないだろうと言われた。食べる事に精一杯の終戦前後の混乱は「花子とアン」の朝ドラと重なり、今でもひもじい思いがよみがえる。「豊かさ」を求めた結果として、戦争や原爆の被害、原発事故災害、経済発展と引き換えに環境汚染による四大公害は典型的な人災と言える。21世紀の社会は「豊かさ」とは何かを問いかけている。

最近日本列島の地殻に異変が起きているのだろうか、自然災害の多さが気掛かりである。人類活動に痛め付けられた地球は、人間の科学技術に挑戦するかの様に巨大地震と大津波、火山噴火、温暖化が齎す巨大台風、大洪水・土砂災害と砂漠化、熱波と寒波、北極・南極の氷山消失による海面上昇、化学物質による大気・水質・土壌の汚染などや環境ホルモンによる生殖異常、変異したウイルス等々が襲いかかってくる危惧が見え隠れしているのも事実である。

少子高齢化の日本人の平均寿命は、平成25年(2013)に男性80.21歳、女性86.61歳と

なった。後期高齢者の仲間入りして久しいが、古稀を過ぎたあたりから親譲りもあちこち痛みだして修復に医者梯子をする日々。あるお医者さんから70歳代は色々故障を起こすが80歳を越えると暫く健康状態が落ち着くとの託言もあり、日野原重明先生の養生訓をまもり、ボケ防止にボランテアグループの一員として高齢者特老ホームへの訪問音楽会に参加している。明治・大正・昭和の叙情歌や唱歌・童謡を趣味で習い覚えた等・三絃譜に編曲し、洋楽器との合奏やコーラスに目をキラキラと輝かし一緒に歌い出す方々もいる。まさに昭和は遠くなりにけりの実感があふれる。(平成26年10月10日記)

第14回農学部 昭和34年卒同期会

酒田市在住 伊藤 秀夫
(昭和34年林学科卒)

昭和34年卒業の学部全学科合同同期会を10月9日・10日泊二日で鶴岡市において開催しましたので報告します。私達の同期会は、平成8年に第一回の同期



右から三人目筆者

会を湯野浜温泉に宿泊して以来第14回目の開催となりました。第13回目は5年ぶりに宮城県仙台市に集合し、東日本大震災で被災された宮城県南三陸町を視察致しました。12名が参加しました。今回は鶴岡駅に集合し、1日目は現在の農学部状況について研修し、11名が参加しました。私達の卒業生は、農学科、林学科併せて42名で少ない学年でありました。12年ぶりに母校を訪問したところ「ホームカミングデー」と称して農学部企画広報室長さんが暖かく迎えてくださり、更に立派な資料も準備され、現在の改変なった講座室において、夏賀副農学部長さんから、農学部の学科改変、組織、イベント等詳しく説明して頂き、ありがとうございます。当日の宿泊は、温海温泉の萬国屋で待望の懇親会に入り、部屋で全員の集合写真撮影後、物故者7名のご冥福をお祈り、黙祷し、その後宴会に入り、一人ずつ近況報告していただきました。我々の年代は喜寿の77才以上なので、健康管理、長寿の秘訣等の報告が多くありました。二次会は、カラオケの部屋に移動し、和やかな雰囲気の中で旧交をあたため、声量のある歌の上手な手代木君の「長崎の鐘」を筆頭にみんなが楽しく歌って過ごしました。

2日目は農学部38年卒の村上

龍男さんが館長である世界一のクラゲ水族館を見学、村上館長さんが出迎えてくださりお話し出来て良かったです。私達の入館で6月1日オープンして以来50万人が入館したそうです。5mの巨大水槽で泳ぐクラゲはすばらしかった。2日目の午後は出羽三山御開祖蜂子皇子御尊像を拝観しました。(明治以降初めて一般の皆さまに公開)、昼食は、今年の羽黒山午歳御縁年に合わせ「羽黒山八景御膳」を齋館にてご馳走になり、羽黒山合祭殿にて私達の健康長寿を祈願し、最後の訪問地鶴岡市立藤沢周平記念館を見学、作家藤沢周平を堪能して、最後に鶴岡駅で解散しました。今回は北海道で行うことになりました。お互いに元気な姿で会えることを楽しみにしております。最後に今回の同期会を開催するにあたって農学部企画広報室や、鶴窓会事務局の村上さんにお世話になったことに厚くお礼申し上げます。

昭和36年農学科卒同期会

宮城県在住
三六農会 富樫 二郎

(昭和36年農学科卒)

この会は平成13年3月鶴岡市

湯田川温泉でスタートした。同18年から隔年ごとに開催され、今回は宮城県在住の門馬、富樫が幹事となり、宮城県作並温泉岩松旅館で5月30日〜31日に10名が参加して開催された。当館は寛政8年創業の老舗で仙台から山形方面に通じる作並街道の広瀬川沿いにあり、春たけなわの鬱蒼とした木々の青葉若葉を

背に極楽の一時を過ごした。避けることのできないエイジングと和し、約50年前の4年間山形、鶴岡で共に学び、共に体験した諸々のことを、生の大切な宝として日々精進し、2年後山形地区で再会することを堅く誓い、同時に母校の益々の発展を祈念して散会した。



下段中央筆者

製薬建具(アルミサッシ)工事、金属金物工事
内装仕上(フローリング)工事 ほか

私たちは、誠実・堅実・確実をモットーに、安心で快適な生活空間を創造し、社会に貢献し続けます。

MASSE

株式会社 マッセ

代表取締役社長 松瀬鋭侍(平成8年生物環境学科卒)

〒101-0046 東京都千代田区神田多町2-9-2 神城ビル4F
TEL 03-5256-3851 FAX 03-5256-3857

URL <http://www.masse-n.co.jp>

ガラスフィルム工事、リフォーム工事 ほか